

タイ縫製工場 あす再開

丸久洪水前の生産水準確保

アパレルメーカーの丸久(徳島県鳴門市、平石雅浩社長)は29日、洪水被害で生産活動を停止していたタイ・アユタヤの縫製工場の操業を再開する。復旧費用は約5000万円。洪水前とほぼ同水準の生産体制を確保する。同社によると、同工場があるロジャナ工業団地は国内大手メーカーが進出しているが、操業を全面再開する日本企業は初めて。



現地従業員が協力して洗浄、殺菌を行い(写真上)、外壁のペンキ塗りも手掛けた(同下)「タイ・アユタヤ工場」



アユタヤ工場は現地従業員330人のうち、120人が水が引き始めた11月20日以降、工場の復旧作業にあたった。延べ床面積約3200平方メートルの建屋全体を3回洗浄した後、消毒と防かび処理を3回ずつ施した。従業員が床のタイルや外壁のペンキを塗った。製品、生地、流木などの廃棄物は約50トンのぼった。復旧の遅れが懸念されていた電気は11月末に仮復旧した。28日までは本格的に復旧するという。工業用水は団地開設当初に使っていた地下水

が利用できることが分かり、供給を受ける。丸久は被害当初、インフラの復旧の遅れに備え、自家発電機と水、大型の貯水タンクを用意していた。丸久は11月中旬、洪水被害のなかったバンコク東部に代替工場を開設した。従業員140人が移

り、アユタヤ工場の5割の生産を続けた。代替工場はアユタヤ工場操業再開に伴い閉鎖。アユタヤ工場は代替工場を使っていた機械と新規に発注した機械を合わせ、子供服で月産14万枚の洪水前の生産水準を確保する。ロジャナ工業団地はホ

ンダ、キャンソンといった多くの日本企業が浸水被害を受けた。丸久は第一期の進出で比較的高台にあるため、約2分の浸水にとどまった。電線などが通る幹線道路の近くにあるため、電気や水が早期に復旧した。アユタヤ工場の現地従

業員のうち、洪水で家が流されたり、家族が失職したりしたためにアユタヤを離れた約50人が退職したという。このため丸久は人材確保を急ぐ。丸久は1959年創業。中国、バン格拉デシュに工場がある。11年3月期の売上高は50億円。